

「生殖・妊娠・子育て・LGBT」関連の技能集団形成プロジェクト

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



5 ジェンダー平等を
実現しよう



崩壊が叫ばれる周産期医療を支える助産師を目指して、全国から受け入れた就労・非就労助産師と助産コースの大学院生が、ともに最新知識を学び、産科超音波検査技術や創部の縫合技術などのアドバンスト・スキルを獲得する。その内容は、不妊症や流死産を繰り返す不育症、虐待予防を含めた子育て、思春期の子どもへの支援など広範囲に及ぶ。

たまり場「リプロカフェ」では、修了生を中心に形成された技能集団が、海外からの留学生や外部の人材も受け入れ、多様性を認めたグローバルな視点で、女性活躍、生殖医療、子育て、LGBT支援などに関する各種の提言、実践を行うシンクタンク機能を担う。

本プログラムで実績のある「母子支援」「性教育」「デートDV防止」に加え、「年齢と妊孕性（妊娠しやすさ）」の知識啓発では、岡山県と協力し、中学生～一般人向けの各種の教材を開発、産婦人科医、助産師、保健師、養護教諭等の中から講師を育成する講習会を開催している。また、本プロジェクトのコンセプトから発生した、日本初の「妊娠中からの気になる母子支援」連絡システムは、2011年から岡山県で始まり、子ども虐待の抑制などの成果につながっている。

岡山大学大学院保健学研究所

「生殖・妊娠・子育て」技能集団形成プロジェクト

